

ニコン：米国DEC社VAX-11/750)を使用することにより、情報処理に関する教育・研究は一段とパワーアップされている。

経営工学科の就職状況を分析してみると、これまでは本州企業より地元で就職する傾向が強かったが、ここ数年本州企業にたいして積極的な対応がみられ、製造業な

どの工程管理および生産管理関係分野の進出と新しい技術産業の情報処理の魅力が、学生の気持を喚起した結果と考えられる。昭和58年度経営工学科卒業生の就職先は業種別では卸・小売業に決定した者が最も多く、つづいて情報処理サービス業、製造業の順となっている。

(天野 豊治)

大分大学・工学部組織工学科

組織工学科は情報の処理、伝送ならびにシステムに関する教育・研究を行なうことを目的として、昭和48年4月に発足した学科である。本学科の教育・研究の分野は英文名“Information Science and Systems Engineering”からも理解されるように、情報工学、計算機工学、システム制御工学、統計学等にまたがっている。

学科の構成は表1のとおり4講座からなり、各講座当り教授、助教授、助手、技官各1名で、その他、教室事務官、教務職員各1名と学科所属の電子計算機室に、室長(教授兼任)、主任(助教授兼任)および技官3名がいる。学部学生定員は1学年40名で、さらに大学院組織工学専攻修士課程の定員は7名である。

表1 講座一覧表

講座名	教育部門	研究部門
基礎情報工学	情報の処理と伝送の基礎	人工知能(図形や自然語の意味的処理),プログラミング言語
電子計算機工学	計算機のハードウェアとソフトウェア	マイクロコンピュータシステムの開発,デジタル回路の解析と設計
基礎システム工学	システムと制御の基礎,数理工学の基礎	時系列データおよび空間データの解析,生体機能(主に聴覚系)の回路理論的研究
応用システム工学	統計,ORおよび計算機応用システム	統計的推測システムの構成,デジタル画像処理および日本語処理

表2 専門課程履修科目

共通必修科目 一(共必), 共通選択科目 一(共選) ソフトウェア系必一(ソ必), ソフトウェア系一(ソ必選)修科目 ハードウェア系必一(ハ必), ハードウェア系一(ハ必選)修科目	テム工学実験(ハ必), 回路網理論(ハ選必), 計算機工学実験(ハ必), 計算機工学I(ハ必), 情報理論(両必), 基礎情報工学演習(両必), 品質管理(両選), 情報工学特別講義I(両選), 信頼性工学(両選), 情報工学特別講義II(両選), システムプログラミングI(ソ必), 応用システム工学演習I(ソ必), 数値計算法I(ソ必), 応用システム工学I(ソ必), 応用システム工学III(ソ選), 応用システム工学II(ソ選必), 数値計算法演習(ソ選必), 応用システム工学演習II(ソ選必), システムプログラミングII(ソ選必), 数値計算法II(ソ選必), 情報処理理論(ソ選必), 数学特論(共選), 一般化学実験(共選)
1年 情報論理学(共必)	
2年 情報回路論(共必), 確率統計(共必), 応用解析I(共選), 応用解析II(共選), 応用解析III(共選) 電子回路I(ハ必), 電子回路実験(ハ必), 電子回路II(ハ必選), 電磁気学(ハ必選), 電気回路I(ハ必選), 電気回路II(ハ必選), 数理工学I(ソ必), 数理工学II(ソ必選), プログラミング言語I(ソ必), プログラミング言語II(ソ必), プログラミング演習I(ソ必), プログラミング演習II(ソ必), 機械工学概論I(共選), 機械工学概論II(共選)	4年 卒業研究(共必), 計算機工学II(ハ必), 情報伝送論(ハ選必), 原子力工学概論(共選), 音響工学(共選), 基礎システム工学III(ハ選)
3年 基礎システム工学II(ハ必), 基礎システム工学演習(ハ必), 基礎システム工学I(ハ必), 基礎シ	

表 3 組織工学科卒業生就職状況

区 分	第5期生 (昭和55 年度)	第6期生 (昭和56 年度)	第7期生 (昭和57 年度)	第8期生 (昭和58 年度)
計 算 機・弱電メー カ ー	13(1)	16(4)	13(2)	12(3)
ソフトウェア会社 ・企業の計算部門	16	16(1)	14	18
計 算 機 販 売 ・ サ ー ビ ス	2	2	3	3
その他の会社	3	2	1	0
教 職	0	0	0	0
官 公 庁	2	1	1	0
自 営 等	0	0	0	0
大学院進学	2	3	7	7
合 計	38(1)名	40(5)名	39(2)名	40(3)名
卒 業 生	38(1)名	40(5)名	39(2)名	40(3)名

() 内 大学院修了生

次に、専門課程学科目の構成は次のとおりである。カリキュラムでは両系とも履習できるようにしているので学生にはできるだけ両方の系とも履習するように指導している。また、卒業研究は4年の前、後期に実施しているが、従来の主なテーマは次のとおりである。

(1) 情報工学に関するもの：英日機械翻訳システムの開発、自然言語および図形の意味理解、音声のデジタル処理、データベース管理システム、DVPを用いた画像処理プログラム、パーソナルコンピュータによる外国雑誌受入管理支援システムの開発等。

(2) 計 算 機 工 学 に 関 す る も の：CMOSのみからなる微小電力3値論理回路、マイクロコンピュータシステム等。

(3) 制 御 工 学 に 関 す る も の：神経回路シミュレーションのための基礎的計 算 機 実 験、コンピュータネットワークのCAD等。

(4) 統 計 学 に 関 す る も の：大分県民選好度調査データの変量解析法による分析、空間データの統計解析等。

組織工学科所属電子計算機室における計算機システムは、FACOM 230-38Sを中心にPANAFACOM U300、FACOM U200L、TOSBAC DS600で構成されており、初級コースではTOSBACを、上級コース(卒業研究を含む)ではFACOMの3機種を使用できるようになっている。

組織工学科では、昭和52年3月に第1回の卒業生を送り出し、本年3月には第8回生を送り出した。卒業生の就職状況を表3に示す。なお、昭和56年3月からは大学院修士学生も世に送り出している。

教職員の年齢も非常に若く、周知のような高度情報化社会に対応すべく、教室一丸となって、教育、研究に精を出している現状である。(杉村正彦)